

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2018～2019

課題番号：18K19467

研究課題名(和文)小児がんと神経発達のクロストークの解明と新規治療法の開発

研究課題名(英文)Elucidation of crosstalk between pediatric cancers and neural development and its application for novel therapeutic strategies

研究代表者

滝田 順子(Takita, Junko)

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：00359621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：広汎性発達障害に神経芽腫を併発した4歳男児、自閉症スペクトラムにEwing肉腫を併発した12歳男子の正常検体と腫瘍細胞を用いて、エクソーム解析を行い、腫瘍と発達障害のクロストークの解明を試みた。また候補遺伝子に関しては、公開データを用いて、腫瘍と発達障害の病態の関連性を検討した。神経芽腫では、家族性のミオクローヌス癲癇の原因遺伝子と考えられるCSMD2が、Ewing肉腫では、神経発達に関連するCNTN6が神経発達と腫瘍の双方に関連する遺伝子として抽出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、発達障害の動物モデルが相次いで開発され、行動薬理学の研究は進められているものの、ヒトの発達障害の発症分子機構に基づいた本質的な薬物治療の開発に関する研究は、未だ発展途上であり、経験的な対症療法のみが行われているのが現状である。本研究成果によって、神経芽腫におけるCSMD2とEwing肉腫におけるCNTN6が、腫瘍の発生と神経発生の共通するパスウェイ遺伝子として同定されたが、これらを標的とした治療の開発は、腫瘍のみならず発達障害に対する根本的な治療の開発につながることで期待される。

研究成果の概要(英文)：To elucidate candidate common pathways in tumorigenesis and neural development, we performed exome sequencing of 2 mental retardation cases with neuroblastoma and Ewing sarcoma, respectively. In addition, we also analyzed open database (TARGET), in order to screen candidate genes in pediatric solid tumors. In neuroblastoma cases, a novel germline variant of CSMD2, a responsible gene for familial myoclonus epilepsy was identified. Of note, this gene was deleted in several tumor samples, suggesting that this gene would be involved not only in neural development but also tumor development. Furthermore, a novel germline mutation of CNTN6 was found in the Ewing sarcoma case, which is thought to be involved in the neural development and tumorigenesis of ovarian cancer. Thus, our results suggest that CSMD2 and CNTN6 are promising candidates which involved in the common pathways in development delay and tumorigenesis.

研究分野：小児がん

キーワード：小児がん 発達障害 自閉症 神経芽腫 Ewing肉腫

1. 研究開始当初の背景

発達障害を伴う Noonan 症候群や Costello 症候群など RAS/MAPK 症候群に加えて、Sotos 症候群などの過成長症候群はいずれも、悪性腫瘍を高率に合併する (Seif AE Cancer Genet. 2011)。近年の分子生物学的手法の急速な進歩に伴い、これらの先天奇形症候群の原因遺伝子として、RAS、PTPN11、NSD1 および XPA など細胞増殖シグナルや DNA の修復に関与する分子が次々と単離された (Zenker M Horm Res. Suppl 2009)。すなわち、これらの分子の生理機能の破綻は造腫瘍性のみならず、中枢神経系の発達にも影響を与えていることが明らかとなり、発達障害と腫瘍発生の分子病態にはクロストークが介在することが推測されている。しかし、発達障害と腫瘍発生の双方に関与する pathway は十分に解明されていない。

一方、自閉症や知的障害などを含む発達障害は現代社会において、国内外で増加傾向にあり、その病態解明の研究は急速な勢いで進められている (Honda H et al, Developmental Medicine & Child Neurology, 2005)。近年、発達障害の動物モデルが相次いで開発され、行動薬理学の研究は進められているものの、ヒトの発達障害の発症分子機構に基づいた本質的な薬物治療の開発に関する研究は、未だ発展途上であり、経験的な対症療法のみが行われているのが現状である。

そこで、本研究では、革新的ゲノム解析技術を駆使して、発達障害と腫瘍発生の双方に関与する分子病態を解明し、腫瘍のみならず発達障害も視野に入れた新規薬物治療開発のための分子基盤を構築する。

2. 研究の目的

発達障害を伴う先天奇形症候群はしばしば腫瘍を合併するが、一部の疾患ではその要因として RAS/MAP シグナル経路や TSC/mTOR 系の生殖系列細胞の異常が報告されている。従って、これらの経路は腫瘍の発症のみならず、神経系の発達にも重要な役割を果たしていると考えられるが、その共通分子機構は十分解明されていない。そこで、本研究では先端的ゲノム・トランスクリプトーム解析、網羅的エピゲノムを駆使した統合的ゲノミクス解析を展開し、腫瘍と発達障害のクロストークを解明することで、双方の病態に有効な新規標的薬開発を目指す。白血病や肺がんなど腫瘍に対する分子標的療法はこれまで相次いで開発され、広くその効果が確認されてきた。しかし、本研究では腫瘍のみならず発達障害に対する分子標的療法の開発といった、これまで全くといってよいほど未開の領域に切り込む点が斬新的でありかつチャレンジ性を有している点と言える。また、発達障害を伴う腫瘍性疾患に対して、統合的ゲノム・エピゲノム解析はこれまで国内外でなされてこなかった。これまでの研究成果を応用し、本研究のような統合的ゲノム解析を行うことによって、腫瘍と発達障害の多重な分子機構を極めて短時間で効率的に解明することが期待できる。

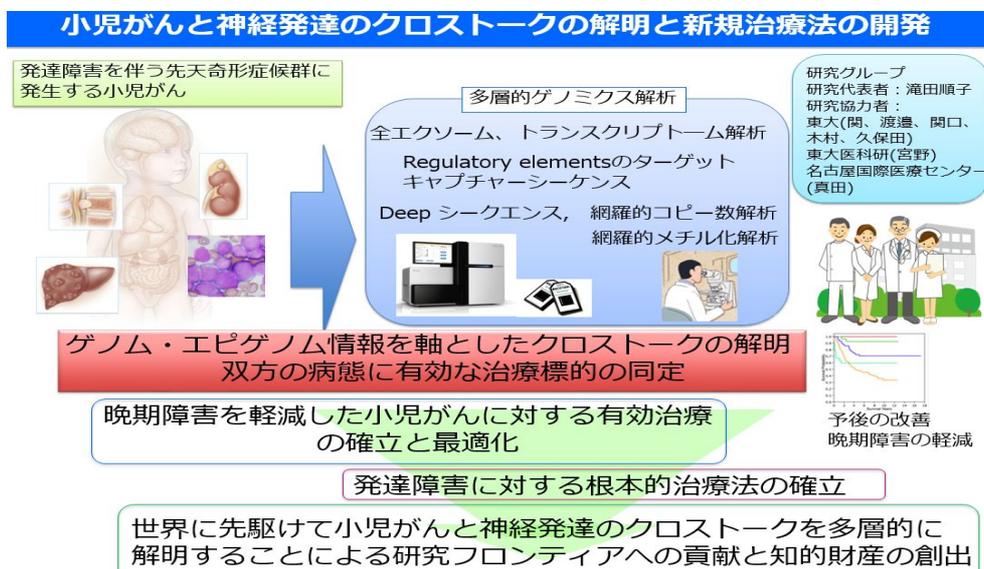


図 1 研究の全体図

3. 研究の方法

解析対象は、東京大学医学部附属病院小児科ならびに関連施設でフォローされている原因遺伝子が未同定である腫瘍を合併した発達障害例および先天性奇形症候群とする。解析症例数は 50 例を予定している。家族歴が濃厚な遺伝性疾患については解析可能な非罹患家族が同時に解析される。方法としては、次世代シーケンサーを用いた全エクソーム解析、トランスクリプトーム解析、Regulatory elements のキャプチャーシーケンス、アレイベースの網羅的ゲノムコピー数の解析、DNA メチル化解析を展開する。本研究における全エクソーム解析の一部は、AMED 未診断疾患イニシアチブ (IRDU) 研究班と連携する。

候補標的遺伝子として同定された機能獲得型変異遺伝子群については、これらを NIH3T3 あるいは c-myc を発現させたラットの初代培養系に遺伝子導入し、in vitro におけるコロニー形成能の解析、細胞増殖能の解析を行う。また、機能喪失型標的遺伝子の候補については、目的の遺伝子の不活化を有する培養細胞株にこれらの遺伝子を強制発現させることにより、造腫瘍能に及ぼす影響を解析する。同様の解析を神経幹細胞用いた系でも検証し、当該遺伝子の神経分化における役割を検討する。ゼブラフィッシュもしくはマウスに当該遺伝子をノックインもしくはノックアウトすることにより、固体発生における当該遺伝子の生理的な役割を検討する。

4. 研究成果

広汎性発達障害に神経芽腫を併発した 4 歳男児、自閉症スペクトラムに Ewing 肉腫と甲状腺がんを併発した 12 歳男子および重度の精神発達障害を合併した横紋筋肉腫の 6 歳男児例の正常検体と腫瘍細胞を用いて、エクソーム解析を行い、腫瘍と発達障害のクロストークの解明を試みた。また候補遺伝子に関しては、公開データを用いて、腫瘍と発達障害の病態の関連性を検討した。

症例 1(神経芽腫)では、腫瘍細胞特異的な somatic 変異は初発検体で 5 個、再発検体で 32 個検出された。初発、再発腫瘍で共通する変異は ALK 変異のみであった。本症例特有の germline 変異は約 300 個検出されたが、家族性のミオクローヌス癲癇の原因遺伝子と考えられる CSMD2 の変異が含まれていた。興味深いことに、腫瘍検体においてこの遺伝子の欠失が確認され、その機能喪失が腫瘍化に関与している可能性が示された。

症例 2(Ewing 肉腫+甲状腺がん)では、RT-PCR により EWSR1-FLI1 キメラ遺伝子は Ewing 肉腫で陽性、甲状腺がんで陰性であることを確認した。また全エクソーム解析で甲状腺がんでは 11 の体細胞変異が検出・確認されたが Ewing 肉腫では変異は同定できなかった。またそれらの変異のアリル頻度をプロットしたところ、甲状腺がんで見られた変異の Ewing 肉腫でのアリル頻度は 0 であったため、それらに共通のクローンの存在は否定的であった(図 1)。

悪性黒色腫で検出されたがん抑制遺伝子、体細胞変異を見出した。Germline 変異として、神経の分化に関与する遺伝子の変異と神経系で強く発現する転写因子の変異を検出した。これらの変異は腫瘍の発生と発達障害の両方に関連する可能性が示唆された。

症例 3(横紋筋肉腫)では、腫瘍細胞に特異的な somatic 変異は初発検体で 9 個、再発検体で 24 個検出された。本症例に特異的な germline 変異は約 450 個検出された。この中に神経発達に関与する接着分子である CNTN6 が含まれていた。この遺伝子は自閉症の発症に関与することが知られており、また卵巣がんなどではがん抑制遺伝子と考えられている。以上の結果より、CSMD2 および CNTN6 の異常は、自験例において発達障害と腫瘍発生の双方に関連する標的分子の一つである可能性が示唆された。

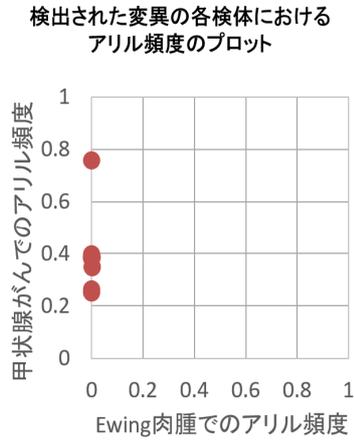
上記で検出された候補遺伝子につき、TARGET の公開データで変異頻度のスクリーニングを行った。その結果、CSMD2 のバリエーションは神経芽腫において 3.2%であり、Ewing 肉腫、肝腫瘍における頻度はそれぞれ、0.8%と 1.2%であった。以上の結果より、CSMD2 のバリエーションは神経芽腫の発症リスクに影響を与えている可能性が示唆され、発達障害との関連性の更なる解析が必要と考えられた。

本研究により、

	Ewing肉腫	甲状腺がん
<i>EWSR1-FLI1</i>	(+)	(-)
体細胞変異数	0	11



Ewing肉腫と甲状腺がんとで共通のクローンの存在は否定的



<図1の説明>

全エクソーム解析で甲状腺がんでは11の体細胞変異が検出・確認されたがEwing肉腫では変異は同定できなかった。またそれらの変異のアレル頻度をプロットしたところ、甲状腺がんで見られた変異のEwing肉腫でのアレル頻度は0であった。

図1 Ewing肉腫と甲状腺がんの体細胞変異

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 27件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Mitsui Tetsuo, Fujita Naoto, Koga Yuhki, Fukano Reiji, Osumi Tomoo, Hama Asahito, Koh Katsuyoshi, Kakuda Harumi, Inoue Masami, Fukuda Takahiro, Yabe Hiromasa, Takita Junko, Shimada Akira, Hashii Yoshiko, Sato Atsushi, Atsuta Yoshiko, Kanda Yoshinobu, Suzumiya Junji, Kobayashi Ryoji	4. 巻 67
2. 論文標題 The effect of graft versus host disease on outcomes after allogeneic stem cell transplantation for refractory lymphoblastic lymphoma in children and young adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato Motohiro, Nakasone Hideki, Nakano Nobuaki, Fuji Shigeo, Shinohara Akihito, Yokoyama Hisayuki, Sakashita Kazuo, Hori Tsukasa, Takahashi Satoshi, Nara Miho, Kanda Yoshinobu, Mori Takehiko, Takita Junko, Kawaguchi Hiroshi, Kawakita Toshiro, Ichinohe Tatsuo, Fukuda Takahiro, Atsuta Yoshiko, Ogata Masao	4. 巻 -
2. 論文標題 Clinical course of autologous recovery with chromosomal abnormalities after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bone Marrow Transplantation	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41409-019-0765-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida Takeshi, Jonouchi Tatsuya, Osafune Kenji, Takita Junko, Sakurai Hidetoshi	4. 巻 7
2. 論文標題 A Liver Model of Infantile-Onset Pompe Disease Using Patient-Specific Induced Pluripotent Stem Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Cell and Developmental Biology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fcell.2019.00316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura S, Seki M, Mansour Marc R., Ohara A, Horibe K, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J	4. 巻 34
2. 論文標題 DNA methylation-based classification reveals difference between pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia and normal thymocytes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 1163 ~ 1168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-019-0626-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano Kenichi, Takasugi Nao, Kubota Yasuo, Mitani Yuichi, Sekiguchi Masahiro, Watanabe Kentaro, Fujimura Junya, Oka Akira, Takita Junko, Hiwatari Mitsuteru	4. 巻 67
2. 論文標題 CBFA2T3 GLIS2 positive acute megakaryoblastic leukemia in a patient with Down syndrome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.28055	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiba Takeshi, Tanaka Takayuki, Ida Hiroaki, Watanabe Misa, Nakaseko Haruna, Osawa Mitsujiro, Shibata Hirofumi, Izawa Kazushi, Yasumi Takahiro, Kawasaki Yuri, Saito Megumu K., Takita Junko, Heike Toshio, Nishikomori Ryuta	4. 巻 144
2. 論文標題 Functional evaluation of the pathological significance of MEFV variants using induced pluripotent stem cell-derived macrophages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Allergy and Clinical Immunology	6. 最初と最後の頁 1438 ~ 1441.e12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jaci.2019.07.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Y, Uryu K, Ito T, Seki M, Kawai T, Isobe T, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J	4. 巻 110
2. 論文標題 Integrated genetic and epigenetic analysis revealed heterogeneity of acute lymphoblastic leukemia in Down syndrome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 3358 ~ 3367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinaga Daisuke, Baba Shiro, Makiyama Takeru, Shibata Hirofumi, Hirata Takuya, Akagi Kentaro, Matsuda Koichi, Kohjitani Hirohiko, Wuriyanghai Yimin, Umeda Katsutsugu, Yamamoto Yuta, Conklin Bruce R., Horie Minoru, Takita Junko, Heike Toshio	4. 巻 13
2. 論文標題 Phenotype-Based High-Throughput Classification of Long QT Syndrome Subtypes Using Human Induced Pluripotent Stem Cells	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Stem Cell Reports	6. 最初と最後の頁 394 ~ 404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2019.06.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akahane Koshi, Murakami Yasushi, Kagami Keiko, Abe Masako, Hama Daisuke, Shinohara Tamao, Watanabe Atsushi, Goi Kumiko, Nishi Rie, Yamauchi Takahiro, Kimura Shunsuke, Takita Junko, Look A. Thomas, Minegishi Masayoshi, Sugita Kanji, Inukai Takeshi	4. 巻 37
2. 論文標題 High ENT1 and DCK gene expression levels are a potential biomarker to predict favorable response to nelarabine therapy in T cell acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hematological Oncology	6. 最初と最後の頁 516 ~ 519
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hon.2654	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe A, Inukai T, Kagami K, Abe M, Takagi M, Fukushima T, Fukushima H, Nanmoku T, Terui K, Ito T, Toki T, Ito E, Fujimura J, Goto H, Endo M, Look T, Kamps M, Minegishi M, Takita J, Inaba T, Takahashi H, Ohara A, Hama D, Shinohara T, Somazu S, Oshiro H, Akahane K, Goi K, Sugita K	4. 巻 8
2. 論文標題 Resistance of t(17;19) acute lymphoblastic leukemia cell lines to multiagents in induction therapy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Medicine	6. 最初と最後の頁 5274 ~ 5288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cam4.2356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iguchi A, Cho Y, Yabe H, Kato S, Kato K, Hara J, Koh K, Takita J, Ishihara T, Inoue M, Imai K, Nakayama H, Hashii Y, Morimoto A, Atsuta Y, Morio T	4. 巻 110
2. 論文標題 Long-term outcome and chimerism in patients with Wiskott-Aldrich syndrome treated by hematopoietic cell transplantation: a retrospective nationwide survey.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Hematol	6. 最初と最後の頁 364-369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-019-02686-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitani Y, Hiwatari M, Seki M, Hangai M, Takita J.	4. 巻 110
2. 論文標題 Successful treatment of acute myeloid leukemia co-expressing NUP98/NSD1 and FLT3/ITD with preemptive donor lymphocyte infusions.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Hematol	6. 最初と最後の頁 512-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-019-02665-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masui Sho, Yonezawa Atsushi, Izawa Kazushi, Hayakari Makoto, Asakura Kayoko, Taniguchi Risa, Isa Masahiko, Shibata Hirofumi, Yasumi Takahiro, Nishikomori Ryuta, Takita Junko, Matsubara Kazuo	4. 巻 5
2. 論文標題 Plasma infliximab monitoring contributes to optimize Takayasu arteritis treatment: a case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40780-019-0136-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Yasuo, Arakawa Yuki, Sekiguchi Masahiro, Watanabe Kentaro, Hiwatari Mitsuteru, Kishimoto Hiroshi, Nakazawa Atsuko, Yoshida Akihiko, Ogawa Seishi, Hanada Ryoji, Oka Akira, Takita Junko, Koh Katsuyoshi	4. 巻 66
2. 論文標題 A case of malignant rhabdoid tumor mimicking yolk sac tumor	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pediatric Blood & Cancer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pbc.27784	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小澤 由衣, 三牧 正和, 佐々木 亜希子, 関口 昌央, 滝田 順子: 青天目 信, 小田 洋一郎	4. 巻 72
2. 論文標題 発作性異常眼球運動を契機に診断に至ったグルコーストランスポーター1欠損症	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児科臨床	6. 最初と最後の頁 601-604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 老木 菜々美, 馬場 志郎, 尾崎 智康, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 吉永 大介, 平田 拓也, 片山 博視, 滝田 順子	4. 巻 123
2. 論文標題 胸痛を契機に心機能低下が判明した左室緻密化障害合併WPW症候群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1388-1394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田坂 佳資, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 神鳥 達哉, 磯部 清孝, 加藤 格, 平松 英文, 前田 由可子, 大封 智雄, 足立 壯一, 滝田 順子	4. 巻 56
2. 論文標題 髄移植後に難治性の自己免疫性溶血性貧血を発症した先天性無巨核球性血小板減少症の乳児例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児血液・がん学会雑誌	6. 最初と最後の頁 348-352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三谷 友一, 関 正史, 鬼澤 真実, 日高 もえ, 藤村 純也, 樋渡 光輝, 滝田 順子	4. 巻 56
2. 論文標題 IST不応の小児最重症再生不良性貧血に対する臍帯血移植例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児血液・がん学会雑誌	6. 最初と最後の頁 338-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝田 順子	4. 巻 58
2. 論文標題 小児がんのトランスレーショナルリサーチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科医学会会報	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 老木 菜々美, 馬場 志郎, 尾崎 智康, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 吉永 大介, 平田 拓也, 片山 博視, 滝田 順子	4. 巻 123
2. 論文標題 胸痛を契機に心機能低下が判明した左室緻密化障害合併WPW症候群	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1388-1394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoyasu Chihiro, Imamura Toshihiko, Tomii Toshihiro, Yano Mio, Asai Daisuke, Goto Hiroaki, Shimada Akira, Sanada Masashi, Iwamoto Shotaro, Takita Junko, Minegishi Masayoshi, Inukai Takeshi, Sugita Kanji, Hosoi Hajime	4. 巻 108
2. 論文標題 Copy number abnormality of acute lymphoblastic leukemia cell lines based on their genetic subtypes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Hematology	6. 最初と最後の頁 312 ~ 318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12185-018-2474-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osumi Tomoo, Tsujimoto Shin-ichi, Tamura Moe, Uchiyama Meri, Nakabayashi Kazuhiko, Takita Junko (22th), Inukai Takeshi, Ogawa Seishi, Kitamura Toshio, Matsumoto Kimikazu, Hata Kenichiro, Kiyokawa Nobutaka, Goyama Susumu, Kato Motohiro	4. 巻 78
2. 論文標題 RecurrentRARBTranslocations in Acute Promyelocytic Leukemia LackingRARATranslocation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer Research	6. 最初と最後の頁 4452 ~ 4458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1158/0008-5472.CAN-18-0840	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsujimoto Shinichi, Osumi Tomoo, Uchiyama Meri, Shirai Ryota, Moriyama Takaya, Takita Junko (16th), Ito Etsuro, Tomizawa Daisuke, Manabe Atsushi, Kiyokawa Nobutaka, Yang Jun J., Kato Motohiro	4. 巻 32
2. 論文標題 Diploype analysis of NUDT15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Leukemia	6. 最初と最後の頁 2710 ~ 2714
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41375-018-0190-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Shunsuke, Seki Masafumi, Yoshida Kenichi, Shiraishi Yuichi, Akiyama Masaharu, Koh Katsuyoshi, Imamura Toshihiko, Manabe Atsushi, Hayashi Yasuhide, Kobayashi Masao, Oka Akira, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Takita Junko	4. 巻 110
2. 論文標題 NOTCH 1 pathway activating mutations and clonal evolution in pediatric T cell acute lymphoblastic leukemia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 784 ~ 794
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.13859	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li Jian-Feng, Dai Yu-Ting, Lilljebjorn Henrik, Shen Shu-Hong, Cui Bo-Wen, Takita Junko (17th), Yasuda Takahiko, Mano Hiroyuki, Johansson Bertil, Yang Jun J., Yeoh Allen Eng-Juh, Hayakawa Fumihiko, Chen Zhu, Pui Ching-Hon, Fioretos Thoas, Chen Sai-Juan, Huang Jin-Yan	4. 巻 115
2. 論文標題 Transcriptional landscape of B cell precursor acute lymphoblastic leukemia based on an international study of 1,223 cases	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 E11711 ~ E11720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1814397115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kimura Shunsuke, Hasegawa Daisuke, Yoshimoto Yuri, Seki Masafumi, Daida Atsuro, Sekiguchi Masahiro, Hirabayashi Shinsuke, Hosoya Yosuke, Kobayashi Masao, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Takita Junko, Manabe Atsushi	4. 巻 50
2. 論文標題 Duplication of ALK F1245 missense mutation due to acquired uniparental disomy associated with aggressive progression in a patient with relapsed neuroblastoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oncology Letters	6. 最初と最後の頁 3323-3329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/ol.2019.9985	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Fumitoshi, Baba Shiro, Yoshinaga Daisuke, Umeda Katsutsugu, Hirata Takuya, Takita Junko, Heike Toshio	4. 巻 14
2. 論文標題 The intracellular Ca ²⁺ concentration is elevated in cardiomyocytes differentiated from hiPSCs derived from a Duchenne muscular dystrophy patient	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 213768 ~ 213768
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0213768	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計114件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 滝田順子
2. 発表標題 ベンチとベッドサイドをつなぐ小児がんにおけるトランスレーショナルリサーチ
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松英文, 加藤格, 梅田雄嗣, 足立壯一, 滝田順子
2. 発表標題 急性リンパ性白血病に対するCD19 CAR-T療法
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関 正史, 木村 俊介, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞急性リンパ性白血病における非翻訳領域の網羅的ゲノム解析
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本倉 浩嗣, 高橋 知也, 花岡 伸太郎, 友滝 清一, 西村 尚子, 山本 茜, 友滝 寛子, 岩永 甲午郎, 松倉 崇, 丹羽 房子, 河井 昌彦, 滝田 順子
2. 発表標題 活性型ビタミンD製剤は早産児骨減少症の治療に必要か?
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 馬場 志郎, 滝田 順子, 山崎 和裕
2. 発表標題 成人川崎病冠動脈狭窄の急性閉塞に対する手術方針の検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 邦昭, 加藤 格, 田中 美幸, 盛田 大介, 松田 和之, 高橋 義行, 梅田 雄嗣, 平松 英文, 中畑 龍俊, 足立 壯一, 滝田 順子, 中沢 洋三
2. 発表標題 CNS-ALLマウスモデルでのpiggyBac CD19 CAR-T細胞脳室内投与の安全性と有効性の検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤 格, 田中 邦昭, 三上 貴司, 児玉 紅美, 中畑 龍俊, 滝田 順子, 足立 壯一, 小川 千登世, 後藤 裕明
2. 発表標題 本邦初の全国小児白血病Patient-derived xenograft(PDX)バンクの樹立
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田 泰央, 関 正史, 関口 昌央, 吉田 美沙, 吉田 健一, 樋渡 光輝, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 田中 祐吉, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 ターゲットキャプチャー法による小児胚細胞腫瘍の変異解析
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芝 剛, 田中 孝之, 西小森 隆太, 井田 弘明, 柴田 洋史, 井澤 和司, 八角 高裕, 斎藤 潤, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 MEFV遺伝子の多様なvariantsに対する疾患関連評価系の確立
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田 吉孝, 八角 高裕, 伊佐 真彦, 仁平 寛士, 芝 剛, 下寺 佐栄子, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 川崎 ゆり, 齋藤 潤, 小原 収, 西小森 隆太, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 遺伝子変異が同定できない免疫不全症例における、患者iPS細胞を用いた解析例の報告
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神鳥 達哉, 梅田 雄嗣, 赤澤 嶺, 田坂 佳資, 加藤 格, 平松 英文, 足立 壯一, 滝田 順子
2. 発表標題 治療終了32年後に局所再発を認めた片眼性網膜芽細胞腫の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高杉 奈緒, 寶月 啓太, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 縦隔腫瘍を伴うT細胞型リンパ性白血病(T-ALL)の小児例に関する臨床的検討
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺 恵子, 高杉 奈緒, 水島 喜隆, 寶月 啓太, 久貝 太麻衣, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 アシクロビル予防投与下で臍帯血移植中に汎発性帯状疱疹を発症した9歳女児例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁平 寛士, 伊佐 真彦, 芝 剛, 本田 吉孝, 下寺 佐栄子, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 丹羽 明, 滝田 順子
2. 発表標題 赤芽球癆を呈したADA2欠損症の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 知也, 岩永 甲午郎, 本倉 浩嗣, 花岡 信太郎, 西村 尚子, 友滝 清一, 山本 茜, 友滝 寛子, 松倉 崇, 丹羽 房子, 河井 昌彦, 滝田 順子
2. 発表標題 TH1既往があり前駆B細胞性ALL加療中に1型DMが判明したDown症の8歳男児
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 実沙子, 磯部 知弥, 寶月 啓太, 久貝 太麻衣, 高見 奈緒, 日高 もえ, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 服薬アドヒアランス不良のためTKIの変更を要した慢性骨髄性白血病の幼児例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋田 充代, 塩田 光隆, 西尾 尚記, 加藤 健太郎, 中川 権史, 山下 純英, 土橋 一重, 梅田 雄嗣, 滝田 順子, 秦 大資
2. 発表標題 家族性高コレステロール血症を背景にもつ頭部腫瘤形成性急性リンパ性白血病の一例
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 林 貴大, 高折 徹, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 奥田 裕子, 原田 浩二, 小泉 昭夫, 滝田 順子
2. 発表標題 新たに診断された小児四肢疼痛発作症の1家系
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 健, 松田 秀一, 戸口田 淳也, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 再発骨肉腫に対するテモゾロミド+エトポシド内服療法の有効性の検
3. 学会等名 第92回日本整形外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 竜弥, 岡島 英明, 才田 聡, 金城 昌克, 園田 真理, 小川 絵里, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 荒川 歩, 小林 千登世, 滝田 順子, 上本 伸二
2. 発表標題 Oncologic emergencyを呈した腹腔原発炎症性筋繊維芽細胞腫瘍に対し、積極的外科的切除を行い無再発生存を得ている1例
3. 学会等名 第56回日本小児外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 本田 吉孝, 赤澤 嶺, 柴田 洋史, 加藤 格, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 滝田 順子
2. 発表標題 後腹膜穿通で発症した難治性十二指腸潰瘍から好酸球性胃腸炎と診断した9歳男児例
3. 学会等名 第68回日本アレルギー学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 滝田 順子
2. 発表標題 ALDに対する骨髄移植治療評価におけるMRI・MRSの有用性に関する検討
3. 学会等名 第61回小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 竜弥, 岡島 英明, 才田 聡, 金城 昌克, 園田 真理, 小川 絵里, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 荒川 歩, 小林 千登世, 滝田 順子, 上本 伸二
2. 発表標題 Oncologic emergencyを呈した腹腔原発炎症性筋繊維芽細胞腫瘍に対し、積極的外科的切除を行い無再発生存を得ている1例
3. 学会等名 第56回日本小児外科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 本田 吉孝, 赤澤 嶺, 柴田 洋史, 加藤 格, 井澤 和司, 八角 高裕, 西小森 隆太, 滝田 順子
2. 発表標題 後腹膜穿通で発症した難治性十二指腸潰瘍から好酸球性胃腸炎と診断した9歳男児例
3. 学会等名 第68回日本アレルギー学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野 直子, 吉田 健司, 舞鶴 賀奈子, 横山 淳史, 滝田 順子
2. 発表標題 ALDに対する骨髄移植治療評価におけるMRI・MRSの有用性に関する検討
3. 学会等名 第61回小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児がんにおける治療標的・教育講演
3. 学会等名 2019年度 日本小児血液がん学会社員総会教育セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 健, 松田 秀一, 戸口田 淳也, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 再発骨肉腫に対するテモゾロミド+エトポシド内服療法の有効性の検討
3. 学会等名 第92回日本整形外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木 健太郎, 馬場 志郎, 吉永 大介, 松田 浩一, 平田 拓也, 滝田 順子
2. 発表標題 患者由来iPS細胞を用いたHO1L-1L欠損症における拡張型心筋症発症機序の解明
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永 大介, 馬場 志郎, 牧山 武, 平田 拓也, 赤木 健太郎, 松田 浩一, 堀江 稔, 滝田 順子
2. 発表標題 iPS心筋を用いたQT延長症候群の表現型に基づく分類法(英語)
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田 浩一, 馬場 志郎, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 万代 昌紀, 滝田 順子
2. 発表標題 胎児不整脈症例の出生後の検討
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田 拓也, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 馬場 志郎, 滝田 順子
2. 発表標題 treat and repairを行った肺血管抵抗の高い心室中隔欠損の1例
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 岡島 英明, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 上本 伸二, 滝田 順子
2. 発表標題 門脈肺高血圧に対する肝移植の早期効果
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 岡島 英明, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 上本 伸二, 滝田 順子
2. 発表標題 門脈肺高血圧患者は肺高血圧治療薬を中止できるか
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場 志郎, 鶴見 文俊, 吉永 大介, 平田 拓也, 平家 俊男, 滝田 順子
2. 発表標題 Duchenne型筋ジストロフィー心筋症は細胞内Ca濃度上昇が原因となる
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒河 純子, 馬場 志郎, 衣川 佳数, 松田 浩一, 赤木 健太郎, 吉永 大介, 平田 拓也, 陳 豊史, 池田 義, 伊達 洋至, 滝田 順子
2. 発表標題 Alveolar Capillary Dysplasiaに対して片側生体肺移植を施行した一男児例
3. 学会等名 第55回日本小児循環器学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 がん・生殖医療 卵巣組織凍結・融解移植の具現化を目指して- がん生殖医療に必要な知識とその実際 小児科の立場から
3. 学会等名 第59回日本産科婦人科内視鏡学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 がん研究における女性研究者(第6回) シンポジウム 小児がんの分子基盤と新規治療法の開発 (Women scientists in cancer research Molecular basis of pediatric cancers and development of novel therapeutic strategies)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 若手企画 10年後のがん研究 (Cancer Research in the next 10 years) . 第78回日本癌学会総会小児がんの分子基盤と新規治療法の開発 パネリスト
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松英文、加藤格、梅田雄嗣、足立壮一、滝田順子
2. 発表標題 小児・若年成人ALLに対するCAR-T細胞療法の実際
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口昌央、滝田順子
2. 発表標題 小児固形腫瘍におけるゲノムプロジェクトの基盤構築
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 関口 昌央, 久保田 泰央, 岡 明, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 遺伝子発現プロファイルによる骨肉腫の生物学的クラスタリング(Biological classification of osteosarcoma based on gene expression profiling)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平松 英文, 加藤 格, 梅田 雄嗣, 足立 壮一, 滝田 順子
2. 発表標題 CAR-T細胞の臨床応用 小児・若年成人ALLに対するCAR-T細胞療法の実際(CAR-T in Clinics Clinical application of CAR-T therapy for acute lymphoblastic leukemia in childhood and adolescence)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口昌央, 滝田順子
2. 発表標題 小児・AYAがんにおけるゲノムプロジェクトの現況と今後 小児固形腫瘍におけるゲノムプロジェクトの基盤構築(Present situation and future prospect of the genome project of pediatric and AYA cancers Fundamentals for Genetic Research Projects in Pediatric Oncology)(英語)
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 小児急性リンパ性白血病の治療標的の探索・特別講演
3. 学会等名 第128回日本血液学会東北地方会, 青森(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 日常診療で遭遇する小児がん・特別講演
3. 学会等名 第82回日本小児科学会滋賀県地方会, 滋賀(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝田 順子
2. 発表標題 Precision medicine and molecular target drugs in pediatric hematological malignancies. シンポジウム
3. 学会等名 第81回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 孝之, 芝 剛, 西小森 隆太, 柴田 洋史, 井澤 和司, 柳町 昌克, 齋藤 潤, 中畑 龍俊, 小原 収, 平家 俊男, 滝田 順子, 八角 高裕
2. 発表標題 多彩な自己炎症性疾患を紐解く インフラマソームを介した自己炎症性疾患の診断・治療にiPS細胞がどのように役立つか?
3. 学会等名 第29回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本 尚幸, 本田 吉孝, 井澤 和司, 前田 由可子, 西谷 真彦, 仁平 寛, 柴田 洋史, 田中 孝之, 八角 高裕, 滝田 順子, 西小森 隆太
2. 発表標題 不明熱診療における末梢血1型インターフェロン応答遺伝子群の発現解析の有用性
3. 学会等名 第29回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田 吉孝, 八角 高裕, 伊佐 真彦, 仁平 寛士, 芝 剛, 柴田 洋史, 田中 孝之, 井澤 和司, 川崎 ゆり, 齋藤 潤, 網代 将彦, 萩原 正敏, 岡田 賢, 小原 収, 平家 俊男, 滝田 順子, 西小森 隆太
2. 発表標題 免疫不全：原発性免疫不全症の遺伝子診断におけるExome解析のpitfallと診断困難例に対する解析戦略 患者由来iPS細胞を用いて診断したDeep intron変異による細胞種依存的なNEMO異常症の経験から
3. 学会等名 第47回日本臨床免疫学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takita J
2. 発表標題 Molecular basis of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia. Symposium
3. 学会等名 2019 St. Jude-VIVA-NCMCS Pediatric Hematology/Oncology Forum, Guangzhou (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村 俊介, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病(T-ALL)のDNAメチル化による分類と変異・発現・分化段階・予後との関連性
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田 翔, 副島 堯史, 鈴木 征吾, 樋渡 光輝, 関 正史, 三谷 友一, 日高 もえ, 佐竹 和代, 野口 隼, 湯坐 有希, 滝田 順子, 康 勝好, 上別府 圭子
2. 発表標題 入院治療中の小児がん患者の身体活動量と家族機能の関連
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林 明日香, 森崎 真由美, 鈴木 征吾, 岩崎 美和, 平田 陽一郎, 佐藤 敦志, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 佐藤 伊織, 上別府 圭子
2. 発表標題 外来通院中の小児血液・腫瘍性疾患患者の移行準備性の特徴 他疾患との比較から
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤崎 弘之, 小松 裕美, 井口 晶裕, 笹原 洋二, 康 勝好, 湯坐 有希, 後藤 裕明, 高橋 義行, 平山 雅浩, 滝田 順子, 家原 知子, 井上 雅美, 小阪 嘉之, 川口 浩史, 田口 智章, 木下 義晶, 米田 光宏, 瀧本 哲也, 松本 公一
2. 発表標題 小児がん拠点病院におけるQuality Indicator
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川場 大輔, 奥野 啓介, 掛江 壮輔, 前島 敦, 佐野 仁志, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 治療中髄外再発により急激な転帰をとったSPI1融合遺伝子陽性T-ALLの一例
3. 学会等名 第61回日本小児血液・がん学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名倉 豊, 曾根 伸治, 中村 潤子, 早川 雅之, 會田 砂良, 川端 みちる, 澤田 良子, 廣瀬 有香, 奥谷 美紅, 上原 茅紘, 三谷 友一, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 山崎 翔, 石井 一彦, 池田 敏之, 岡崎 仁
2. 発表標題 IgG型冷式抗体による自己免疫性溶血性貧血を疑った1症例
3. 学会等名 第66回 日本輸血・細胞治療学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 入倉 朋也, 星野 昭芳, 日高 もえ, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 名倉 豊, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 予防接種後に発症した生後2ヵ月の冷式AIHAの1例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池山 志豪, 平田 陽一郎, 白神 一博, 浦田 晋, 朝海 廣子, 犬塚 亮, 進藤 考洋, 滝田 順子, 藤代 準, 岡 明
2. 発表標題 中心静脈カテーテルのガイドワイヤー遺残を認めた1歳男児の一例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 瑛梨, 佐藤 敦志, 樋渡 光輝, 下田 木の実, 竹中 暁, 関 正史, 三谷 友一, 日高 もえ, 滝田 順子, 岡 明.
2. 発表標題 造血幹細胞移植後の血管脆弱性を背景とした脳血管障害の3例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 割田 陽子, 佐藤 敦志, 犬塚 亮, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 北中 幸子, 本田 京子, 佐竹 和代, 小林 智明, 矢野 敬一郎, 岡 明
2. 発表標題 多職種で行う小児の画像検査プレパレーション
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真野 絢子, 池山 志豪, 鬼澤 真実, 高見澤 幸一, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 白血病に対する同種骨髄移植後に慢性移植片対宿主病による心嚢液貯留を認めた10歳女児
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日高 もえ, 関 正史, 星野 昭芳, 三谷 友一, 半谷 まゆみ, 樋渡 光輝, 滝田 順子, 岡 明
2. 発表標題 骨髄とリンパ節で異なる表現型を呈した混合表現型急性白血病
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井 裕子, 滝田 順子, 高木 正稔
2. 発表標題 デジタルPCRによる神経芽腫のCopy Number Variation(CNV)解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関 正史, 磯部 知弥, 河合 智子, 樋渡 光輝, 吉田 健一, 片岡 圭亮, 佐藤 悠祐, 藤井 陽一, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 岡 明, 康 勝好, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 公開データとの統合による神経芽腫の網羅的ゲノム・エピゲノム解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯部 知弥, 関 正史, 吉田 健一, 関口 昌央, 塩澤 裕介, 木村 俊介, 吉田 美沙, 河合 智子, 秋山 政晴, 藤村 純也, 濱 麻人, 家原 知子, 細井 創, 田中 祐吉, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 岡 明, 滝田 順子
2. 発表標題 統合的オミクス解析による胚芽腫の分子病態の解明
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口 昌央, 関 正史, 河合 智子, 磯部 知弥, 吉田 美沙, 吉田 健一, 星野 論子, 白石 友一, 千葉 健一, 宗崎 良太, 渡邊 健太郎, たぐ, 田口 智章, 岡 明, 宮野 悟, 田中 祐吉, 秦 健一郎, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 メチル化及び発現解析による臨床像・遺伝学的特徴の異なる肝芽腫のサブグループの同定
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 吉田 健一, 上野 浩生, 大木 健太郎, 小林 良二, 出口 隆生, 橋井 佳子, 今村 俊彦, 佐藤 篤, 清河 信敬, 小林 正夫, 岡 明, 林 泰秀, 真部 淳, 小原 明, 堀部 敬三, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 幼弱T細胞性急性リンパ性白血病の予後因子の検討
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 河合 智子, 関 正史, 磯部 知弥, 土岐 力, 吉田 健一, 片岡 圭祐, 大木 健太郎, 清河 信敬, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 小川 誠司, 佐藤 篤, 照井 君典, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子
2. 発表標題 ダウン症候群児の急性リンパ性白血病における包括的なゲノム解析
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiwatari M, Seki M, Kimura S, Sekiguchi M, Kubota Y, Watanabe K, Takita J
2. 発表標題 Synergistic effects of ALK and STAT3 inhibitors on ALK mutated neuroblastoma cells
3. 学会等名 Advances in Neuroblastoma Research 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kimura S, Watanabe K, Sekiguchi M, Seki M, Yoshida K, Kawai T, Isobe T, Shiozawa Y, Suzuki H, Kataoka K, Fujii Y, Chiba K, Shiraishi Y, Hoshino N, Hiwatari M, Hayashi Y, Kobayashi M, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Combined RNA sequencing and mutation analysis classified high-risk neuroblastoma into 3 groups in terms of differentiation and expression pattern
3 . 学会等名 Advances in Neuroblastoma Research 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatari M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Oka A, Koh K, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Inhibition of phosphoglycerate dehydrogenase inhibits neuroblastoma growth and arginine deiminase reinforces the effect by altering tumor metabolism.
3 . 学会等名 Advances in Neuroblastoma Research 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Watanabe K, Takita J
2 . 発表標題 Molecular basis and therapeutic targets of neuroblastoma
3 . 学会等名 St. Jude Children's Research Hospital (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kimura S, Seki M, Takita J
2 . 発表標題 Identification of recurrent SP11/PU.1 fusions exhibiting distinct clinical and molecular features
3 . 学会等名 29th Annual Meeting of the International BFM StudyGroup (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubota K, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata, K, Ito E, Takita J
2. 発表標題 Integrated genetic and epigenetic analysis elucidated expression
3. 学会等名 23rd Congress of European Hematology Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Chiba K, Ohki K, Kato M, Koh K, Hanada R, Moritake H, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Ogawa S, Hata K, Takita J
2. 発表標題 Characterization of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia with DNA methylation status
3. 学会等名 23rd Congress of European Hematology Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口 昌央, 関 正史, 吉田 健一, 吉田 美沙, 白井 了太, 宗崎 良太, 白石 友一, 田口 智章, 加藤 元博, 田中 祐吉, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 肝臓癌悪性腫瘍における現況と展望 網羅的エピゲノム解析による高リスク肝芽腫の治療標的NQO1の同定
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関 正史, 磯部 知弥, 河合 智子, 樋渡 光輝, 吉田 健一, 白石 友一, 千葉 健一, 秦 健一郎, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 PHGDH阻害剤は神経芽腫の増殖を阻害し、アルギニンデイミナーゼはがん代謝を変化させその適応範囲を広げる
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 河合 智子, 吉田 健一, 上野 浩生, 今村 俊彦, 真部 淳, 堀部 敬三, 小原 明, 宮野 悟, 小川 誠司, 秦 健一郎, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病の網羅的DNAメチル化解析による分類と変異・発現・分化段階・予後との関連性
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 関 正史, 清河 信敬, 宮野 悟, 小川 誠司, 照井 君典, 佐藤 篤, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子.
2. 発表標題 ダウン症候群児に発症した急性リンパ性白血病では高頻度にPh-likeを認める
3. 学会等名 第77回日本癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田 泰央, 瓜生 久美子, 伊東 竜也, 河合 智子, 関 正史, 磯部 知弥, 土岐 力, 吉田 健一, 片岡 圭亮, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 大木 健太郎, 清河 信敬, 宮野 悟, 岡 明, 林 泰秀, 小川 誠司, 照井 君典, 佐藤 篤, 秦 健一郎, 伊藤 悦郎, 滝田 順子.
2. 発表標題 ダウン症候群時の急性リンパ性白血病におけるPh-likeの同定
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村 俊介, 関 正史, 吉田 健一, 上野 浩生, 塩澤 裕介, 磯部 知弥, 大木 健太郎, 加藤 元博, 康 勝好, 小林 良二, 出口 隆生, 橋井 佳子, 今村 俊彦, 佐藤 篤, 清河 信敬, 真部 淳, 堀部 敬三, 小原 明, 眞田 昌, 小林 正夫, 岡 明, 林 泰秀, 宮野 悟, 小川 誠司, 滝田 順子
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病におけるNOTCH1シグナル活性化変異の種類と臨床的特徴の解析
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤 元博, 大隅 朋生, 辻本 信一, 田村 萌, 内山 芽里, 滝田 順子 (23番目), 犬飼 岳史, 小川 誠司, 北村 俊雄, 松本 公一, 秦 健一郎, 合山 進, 清河 信敬
2. 発表標題 RARA転座陰性の急性前骨髄性白血病におけるRARβ転座
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高杉 奈緒, 日高 もえ, 三谷 友一, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子
2. 発表標題 小児の再発/難治性急性リンパ性白血病に対するクロファラビンを用いた多剤化学療法の有効性
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三谷 友一, 日高 もえ, 関 正史, 樋渡 光輝, 滝田 順子. 当施設における小児再発急性白血病に対する2度目の同種骨髄移植症例の成績
2. 発表標題 当施設における小児再発急性白血病に対する2度目の同種骨髄移植症例の成績
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋渡 光輝, 渡邊 健太郎, 木村 俊介, 関口 昌央, 久保田 泰央, 岡 明, 滝田 順子.
2. 発表標題 造血管および固形腫瘍におけるSTAT3阻害剤、cucurbitacin Iの抗腫瘍効果の検討
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiwatari Mitsuteru, Kimura Shunsuke, Watanabe Kentaro, Sekiguchi Masahiro, Kubota Yasuo, Takita Junko
2. 発表標題 STAT3阻害剤cucurbitacin IはT-ALLの増殖を抑制する
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maeda Sayaka, Kato Itaru, Umeda Katsutsugu, Hiramatsu Hidefumi, Adachi Souichi, Takita Junko, Tsuneto Satoru
2. 発表標題 小児悪性腫瘍患者の終末期における苦痛緩和のための持続的鎮静
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakamura Misako, Isobe Tomoya, Hogetsu Keita, Kugai Tamae, Takasugi Nao, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 BCR-ABL融合遺伝子陽性慢性骨髄性白血病の1歳10ヵ月女児例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsurusaki Yoshinori, Hamanoue Satoshi, Nagai Jyunichi, Nakamura Wataru, Fujita Sachio, Hayashi Akiko, Miyagawa Naoyuki, Yokosuka Tomoko, Iwasaki Fuminori, Shiomi Masae, Goto Shoko, Kurosawa Kenji, Takita Junko, Hayashi Yasuhide, Tanaka Yukichi, Goto Hiroaki
2. 発表標題 全エクソームシーケンスによる悪性ラブドイド腫瘍の薬剤耐性に関する責任遺伝子の同定
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名	Sonoda Mari, Umeda Katsutsugu, Nodomi Seishiro, Obu Satoshi, Saida Satoshi, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Ogawa Eri, Okamoto Shinya, Morita Ken, Kamikubo Yasuhiko, Adachi Souichi, Nakahata Tatsutoshi, Okajima Hideaki, Uemoto Shinji, Takita Junko, Heike Toshio
2. 発表標題	肝芽腫に対するCD146をターゲットとした新規治療の開発
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Akazawa Ryo, Umeda Katsutsugu, Tasaka Keiji, Kamitori Tatsuya, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Sakamoto Akio, Okamoto Takeshi, Adachi Souichi, Takita Junko
2. 発表標題	頻回再発骨肉腫に対するテモゾロミド/エトポシドの治療効果
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Takasugi Nao, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Uotani Chizue, Suzuki Kan, Fujishiro Jun, Takita Junko
2. 発表標題	初期治療5年後に再発をきたした低リスクB群横紋筋肉腫の2例
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Kugai Tamae, Mitani Yuichi, Kodachi Yasuo, Fujishiro Jun, Takasugi Nao, Hogetsu Keita, Hidaka Moe, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題	横紋筋肉腫治療終了後に重症間質性肺炎を呈した小児例
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Ogata Hideto, Kato Itaru, Uto Megumi, Kamitori Tatsuya, Tasaka Keiji, Mikami Takashi, Umeda Katsutsugu, Hiramatsu Hidefumi, Fukao Daisuke, Hamahata Keigo, Mizowaki Takashi, Adachi Souichi, Takita Junko
2. 発表標題 緩和的全脳全脊髄照射が長期的有効性を示した難治性中枢神経浸潤急性リンパ性白血病小児症例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tasaka Keiji, Umeda Katsutsugu, Kamitori Tatsuya, Ogata Hideto, Mikami Takashi, Kato Itaru, Hiramatsu Hidefumi, Arakawa Yoshiki, Noguchi Michio, Adachi Souichi, Takita Junko.
2. 発表標題 著明な髄腔内脂肪蓄積を合併した頭蓋内growing teratoma syndromeの1例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Yuji, Kato Shota, Shirai Ryota, Osumi Tomoo, Kiyotani Chikako, Watanabe Toshihiko, Hishiki Tomoro, Sekiguchi Masahiro, Seki Masafumi, Takita Junko, Kiyokawa Nobutaka, Miyazaki Osamu, Yoshioka Takako, Matsumoto Kimikazu, Kato Motohiro
2. 発表標題 DICER1複合ヘテロ接合体変異を認めた胸膜肺芽腫の姉弟例
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Suzuki Kan, Fujishiro Jun, Watanabe Miho, Uotani Chizue, Takami Shohei, Goshima Tsubasa, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題 当科過去10年間の神経芽腫群腫瘍におけるinitial surgical intervention
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名	Kato Keisuke, Sakaguchi Hirotooshi, Kodama Yuichi, Shinkoda Yuichi, Shimada Akira, Iwase Takashi, Takita Junko, Ogawa Chitose, Hiramatsu Hidefumi, Kato Motohiro, Sato Atsushi, Uryu Hideko, Iwai Tsuyako, Saito Akiko, Kawasaki Hirohide, Koh Katsuyoshi, Manabe Atsushi, Horibe Keizo, Shimada Hiroyuki
2. 発表標題	Ph+ALL臨床研究非登録症例の治療実態に関する後方視的調査研究
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Takasugi Nao, Mori Takayuki, Hidaka Moe, Mitani Yuichi, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題	神経芽腫に伴う傍腫瘍性神経症候群を呈し、リツキシマブの早期開始により軽快した1例
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Mitani Yuichi, Hogetsu Keita, Kugai Tamae, Takasugi Nao, Hidaka Moe, Hiwatari Mitsuteru, Takita Junko
2. 発表標題	小児Philadelphia染色体陽性白血病に対するTKI併用化学療法の治療経験
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Sato Aiko, Seki Masafumi, Shiraiishi Yuichi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Okita Hajime, Miyano Satoru, Ogawa Seishi, Hosoi Hajime, Takita Junko
2. 発表標題	胎児型横紋筋肉腫におけるFGFR4経路の変異
3. 学会等名	第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Kimura Shunsuke, Seki Masafumi, Kawai Tomoko, Yoshida Kenichi, Isobe Tomoya,, Junko Takita (Last)
2. 発表標題 小児T細胞性急性リンパ性白血病のDNAメチル化による分類と変異・発現・分化段階・予後との強い関連性
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubota Yasuo, Seki Masafumi, Sekiguchi Masahiro, Yoshida Misa, Yoshida Kenichi, Shiraiishi Yuichi, Chiba Kenichi, Tanaka Hiroko, Miyano Satoru, Oka Akira, Hayashi Yasuhide, Tanaka Yukichi, Takita Junko
2. 発表標題 ターゲットキャプチャー法による小児胚細胞腫瘍の遺伝子変異解析
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Watanabe Kentaro, Takita Junko.
2. 発表標題 固形腫瘍における基礎医学の新展開 高リスク神経芽腫に対するがん代謝を標的とした新規治療創出
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiguchi Masahiro, Seki Masafumi, Kawai Tomoko, Isobe Tomoya, Yoshida Kenichi, , Takita Junko(Last)
2. 発表標題 網羅的ゲノム解析による高リスク肝芽腫の治療標的ODC1の同定
3. 学会等名 第60回日本小児血液・がん学会学術集会
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Murata S, Suzuki S, Soejima T, Hiwatari M, Seki M, Mitani Y, Hidaka M, Satake K, Shimosakon S, Noguchi J, Yuza Y, Takita J, Koh K, Kamibeppu K
2 . 発表標題 Relationship between fatigue and family functioning in children with cancer undergoing treatment in the hospital:A cross-sectional study
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kobayashi A, Sato I, Nakajima S, Hiwatari M, Seki M, Mitani Y, Hidaka M, Satake K, Shimosakon S, Yanagi M, Yuza Y, Koh K, Takita J, Kamibeppu K
2 . 発表標題 Health-related quality of life in parents of hospitalized children with cancer focusing on changes in working conditions and parental beliefs:A cross-sectional study
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kimura S, Seki M, Yoshida K, Ueno H, Ohki K, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Analysis of the distribution and clinical features of alterations activating NOTCH1 signaling in pediatric T-Cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL)
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kubota Y, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Oki K, Kiyokawa N, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J
2 . 発表標題 Integrated genetic analysis elucidated expression and methylation profiles of acute lymphoblastic leukemia in down syndrome
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hiwatari M, Watanabe K, Kimura S, Takita J
2 . 発表標題 Synergistic activity of ALK and STAT3 inhibitors for the treatment of ALK mutated neuroblastoma cells
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatari M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Oka A, Koh K, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 Molecular basis underlying targeting metabolism for cancer therapy in neuroblastoma.
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Sekiguchi M, Seki M, Kawai T, Isobe T, Yoshida K, Yoshida M, Shirai R, Souzaki R, Shiraishi Y, Hoshino N, Watanabe K, Arakawa Y, Koh K, Taguchi T, Kato M, Tanaka Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J
2 . 発表標題 High expression of NQO1 with promoter hypomethylation in high-risk hepatoblastoma is related to increased cell proliferation and drug resistance
3 . 学会等名 The 50th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hiwatari M, Watanabe K, Kubota Y, Kimura S, Takita J
2 . 発表標題 Identification of Novel Pathways and Small Molecules Able to Down Regulate Oncogenes Expression By Compounds Screening Approaches in Acute Leukemia and Neuroblastoma Cells
3 . 学会等名 60th ASH Annual Meeting & Exposition (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimura S, Seki M, Yoshida K, Ueno H, Nannya Y, Ohki K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Hiwatari M, Kobayashi M, Oka A, Miyano S, Ogawa S, Takita J
2. 発表標題 Distribution and clinical features of NOTCH1 signaling activating alterations in pediatric T-Cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL)
3. 学会等名 60th ASH Annual Meeting & Exposition (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----